

九州地方・九州大学 における取り組み

九州大学 基幹教育院
キャンパスライフ健康支援センター
インクルージョン支援推進室
横田晋務

目次

1. 障害学生支援における量的課題
2. 高等教育機関との連携
3. 初等・中等教育機関との連携

1. 障害学生支援における量的課題

H29 在籍障害学生数

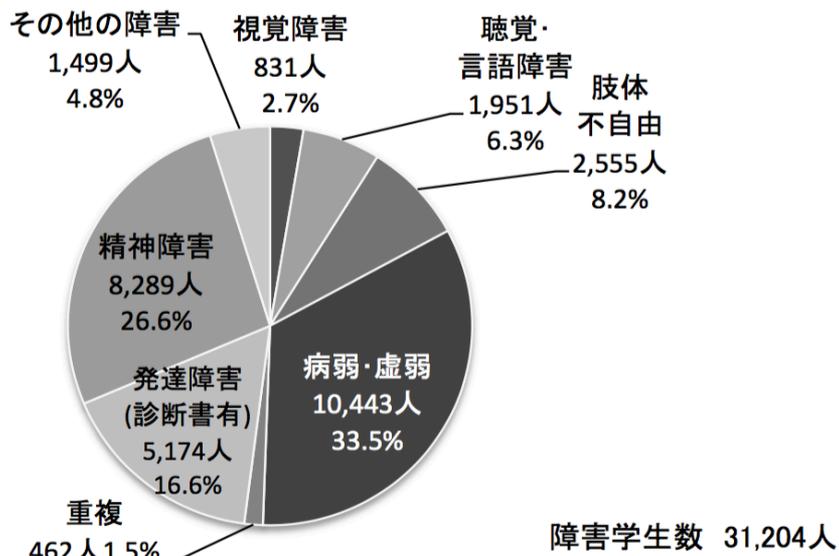
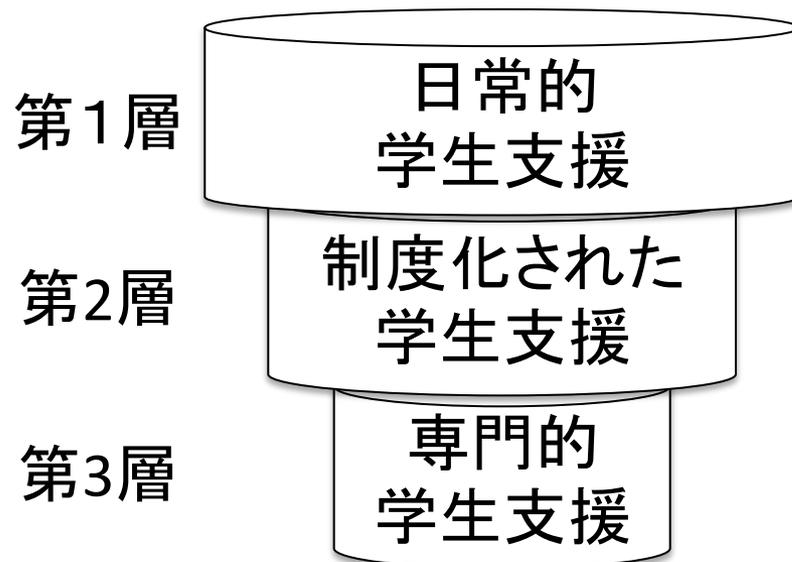


図1 障害学生数(障害種別)

日本学生支援機構 (2018)

支援リソース

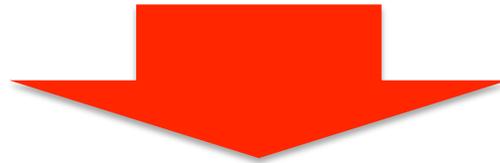


学生支援の3階層モデル 日本学生支援機構 (2007)

増加する障害学生に対し、直接支援を担う人材は少ない
制度化された学生支援を担う、学生サポーター育成が重要

1. 障害学生支援における量的課題

- 支援体制整備
- 支援学生の確保
- 育成のノウハウがない
- 支援スキルと支援ニーズのマッチング



九州地方・九州大学における地域連携

- ① 高等教育機関との連携
- ② 初等・中等教育機関との連携

2. 高等教育機関との連携について

- 2.1 九州・沖縄地区障害者支援体制構築に関する協議会
- 2.2 大学間連携支援学生研修プログラム

2.1 九州・沖縄地区

障害者支援体制構築に関する協議会

- 目的
 - 九州・沖縄地区の各大学の情報共有
 - 障害者支援、支援学生育成等での連携
 - 対応要領の作成、学内支援体制の構築
- 連携校
 - 九州・沖縄地区の国立大学11校
- 2014年から原則年1回開催

2.1 概要

年月日	参加者数 (参加団体)	内 容	アンケートによる情報共有
2015/3/9	36 (学外24)	①講演 「わが国の障害者施策の動向と大学における今後の対応について」 「障害学生支援における『社会的障壁の除去』とは」	
2015/12/1	35 (12)	①講演 「障害のある学生に対する差別禁止と合理的配慮のあり方について」 ②全体協議:情報共有 規定・対応要領の作成について	幹事校からの提案 ・在籍学生の障害種 ・支援体制 ・対応要領の作成 など
2016 ①7/8	27 (11)	①講演 「障害学生支援に関する九州・沖縄地区の連携」 ②グループ討議:大学間連携、学内の支援体制作り 学生への支援、合理的配慮	参加校からの提案により、 グループ協議を構成
②11/8	12(7)	①情報交換 ・学内外連携について ・大学職員への啓発活動周知の方法 ・サポーター学生育成 ・入試 ・進路・就職支援	
2018/1/30	27(11)	①協議事項 ・合理的配慮についての事例検討・共有の場の設定について ・九州・沖縄地区の大学連携の今後のあり方について など	参加校からの提案 ・障害学生の学外実習等について ・事前の改善措置の対応について など

2.1 これまでの内容

- 2014年度 (2015.3.9)
 - 九州大学全学FDとして開催
 - 障害者施策の動向
 - 発達障害学生への支援
 - 参加者の感想
 - 関わりへの不安
 - ガイドラインの必要性
 - 人的、金銭的コスト

平成26年度九州大学全学FD
(キャンパスライフ・健康支援センター講演会)

障害学生支援におけるバリアフリー —合理的配慮をめぐって—

講演① 我が国の障害者施策の動向と
大学における今後の対応について(仮題)

講師：(文部科学省)

講演② 障害学生支援における「社会的障壁の除去」とは
—発達障害学生を中心に—

講師：吉武清實先生(東北大学高度教養教育・学生支援機構教授)

日 時：2015年3月9日(月)14:00～17:00

会 場：伊都キャンパス・センター1号館3階 1302教室
箱崎キャンパス(中継)・旧工学部本館2階 4番講義室

平成26年2月に障害者権利条約が日本において発効し、平成28年4月には、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)における合理的配慮規定等が施行されます。これに伴って、国公立大学等では障害者への合理的配慮の提供が法的義務となります。

このようなことを背景に、本全学FDでは、国の障害者施策に関する最新情報や大学における障害学生支援体制の事例・課題等について紹介し、各大学等の学生支援担当者の理解促進・普及啓発を図り、障害学生支援の充実に資することを目的としています。

●対象：

- ・九州大学教職員
- ・学生支援に関わる大学・短期大学・高等専門学校・高等学校等の管理者・実務担当者・教職員
- ・障害者支援に関わる者

●定員：100名

●申込み・お問い合わせ

件名に「全学FD参加申込」とご記入のうえ、お名前、ご所属、連絡先(メールアドレス)、参加会場をメールでお申し込みください。
学務部学務企画課：大津 gapspecial@jim.kyushu-u.ac.jp

●アクセスキャンパスマップ

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>

●当日は、手話通訳・PC文字通訳をご用意します。

その他、必要な配慮等をご希望の方は申込時にお申し出ください。



2.1 これまでの内容

- 2015年度 (2015.12.1)
 - 参加: 11大学 + 企業 27名
 - 内容
 - ① 講演: 「障害のある学生に対する差別禁止と合理的配慮のあり方」
 - ② 全体協議
 - 各大学の体制に関する情報共有
 - 支援組織名称、組織図、スタッフ構成
 - 支援内容、サポーター学生育成など
- 規定・対応要領の作成

2.1 これまでの内容

- 2016年度① (2016.7.8)
 - 参加: 11大学 + 企業 35名
 - 内容
 - ① 講演: 「障害学生支援に関する九州・沖縄地区の連携」
 - ② グループ討議
 - 大学間連携
 - 学内の支援体制・組織作り
 - 学生への支援
 - 合理的配慮

A: 大学間連携(サポーター学生育成、遠隔情報保障等)

Ex. • 単位互換

- 聴覚障害者支援、教員免許取得希望の学生を対象とする
- 国大協、九州地区支部における連携

B: 学内の支援体制や組織づくり

Ex. • 支援体制、窓口(入試課、障害学生支援室)

- 合理的配慮の決定過程は大学ごとに違う
- 合理的配慮を決める場所(決定機関、決定者)

C: 学生(修学、対人関係、進路・就職等)への支援

Ex. • 大学と企業の共通理解の場

- 卒後のフォロー
- 学内での就労経験(生協、図書館、カフェ)

D: 合理的配慮

Ex. • 合理的配慮の明確な定義

- 障害学生に対する教育
- 教職員・学生への啓発

2.1 これまでの内容

- 2016年度②(2016.11.8)
 - 参加:7大学 12名
 - 内容:情報交換
 - 連携:学内外、九州・沖縄地区
 - 啓発:FD・SD、学生への周知、セルフアドボカシー
 - 入試:聴覚障害、緘黙への配慮
 - 就職:発達障害学生へのキャリア支援
 - 学生育成
 - 大学間連携講習会の開催について

2.1 これまでの内容

- 2017年度
 - 参加: 11大学 27名
 - 内容: 協議および承合事項に関する情報共有
 - 協議事項
 - 九州・沖縄地区の大学連携の今後の在り方
 - 合理的配慮の決定過程についての事例検討の場
 - グレーゾーン学生への対応
 - 成績評価に関する基本方針作成

2.1 各大学の体制に関する情報共有

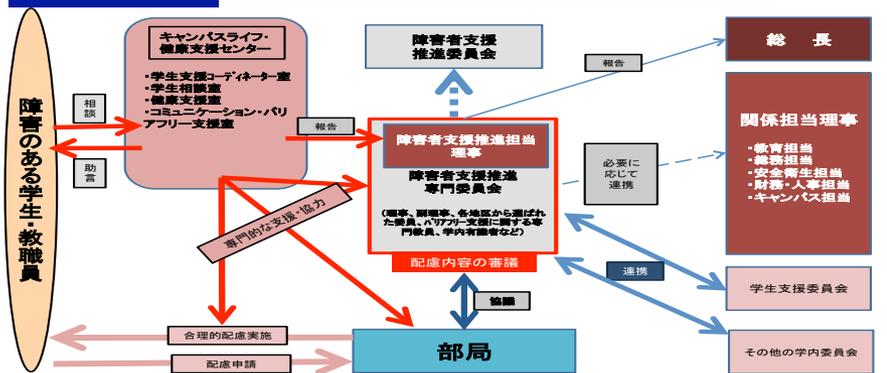
九州大学

支援組織名称

- ・障害者支援推進委員会（部局長），障害者支援専門委員会
- ・キャンパスライフ・健康支援センターコミュニケーション・バリアフリー支援室

支援組織図

障害者支援に関する連携図(案)



支援組織スタッフ構成

- ・室長（教授），専任スタッフ（教員）2名，非常勤カウンセラー（臨床心理士）3名，事務補佐員1名
- 計7名

大学概要（平成27年5月1日現在）

学生数	18,907人（学部生数12,004人，大学院生数6,903人）	学部	11学部+1プログラム
教職員数	8,025人	大学院	18学府，専門職大学院4

支援内容

- ・障害者支援の推進に関する全学体制の構築
- ・修学・就労機会の確保
- ・学内外連携ネットワーク
- ・施設のバリアフリー
- ・パーソナル支援（個別支援・居場所支援・就職支援など）
- ・啓発活動・認識調査

サポーター学生育成

- ・基幹教育総合科目「アクセシビリティ入門（点字・手話・パソコンノートブック等）」「バリアフリー支援入門」「ユニバーサルデザイン研究」「アクセシビリティマネジメント研究」開講
- ・アクセシビリティリーダー（AL）育成協議会認定AL1・2級資格取得

課題やその他特記事項

- ・障害者（学生・教職員）への全学支援体制へ
- ・恒常的な支援経費確保
- ・学生，教職員のバリアフリー意識向上

2.1 事前アンケートによる情報共有

- 幹事校からの提案 (2014,15)
 - 在籍学生の障害種、支援体制、対応要領の作成
 - 取り組み状況
 - 入試、実習、グループワーク、高大連携、就職
 - 支援学生育成
 - 理解啓発
 - 外部支援者の配置
 - 制度の整備(長期履修、通称名使用)
 - 災害時対応

2.1 事前アンケートによる情報共有

- 参加校からの提案 (2016)
 - 物理的環境の整備
 - 事前的改善措置への対応
 - 就職支援
 - 就職対策障害学生へのアルバイトの斡旋
 - 修学上の支援
 - 障害のある留学生への対応
 - 学生のつまづきを発見するシステム
 - 障害学生へのチューター制度導入
 - 学内配置介助者
 - 講義への出席／欠席の考え方
 - 紛争事例
 - サポーター学生の育成
 - リクルート ・謝金

2.1 大学間連携における課題

- 規模、性質、立地などにより、各大学の状況や必要とされる支援内容が異なる
 - 学部数・学生数
 - 分散型キャンパス
 - 留学生（インバウンド・アウトバウンド）

2.九州・沖縄地区における大学間連携について

- 2.1 九州・沖縄地区障害者支援体制構築に関する協議会
- 2.2 大学間連携支援学生研修プログラム

2.2 大学間連携 支援学生研修プログラム

- 目的
 - 支援学生育成に際し、各大学での障害者支援に関わる活動等を共有し、連携することにより、負担の軽減を図る
- 内容
 - 支援技術の習得、およびスキルアップ
 - 習得した支援技術の指導方法を学ぶ
 - 障害者支援に関することを学ぶ

2.2大学間連携 支援学生研修プログラム

- 2017年度：パソコンノートテイク研修会
支援学生交流会
 - 参加者：学生 14名 (7大学) 教職員：23名 (9大学)
 - 内容
 - 講義 障害学生支援概要 (九州大 田中教授)
パソコン文字通訳基礎 (福岡教育大 太田教授)
 - 各大学でのピアサポート活動報告

2.2 大学間連携 支援学生研修プログラム

- 意義

- 支援学生育成に関するノウハウの共有
- 学生交流によるモチベーションの向上
- 各大学の置かれている状況を学生自身が感じ、課題について考える機会

- 課題

- 継続性
- 支援学生の活躍の場の保障
 - 遠隔PCテイク
 - 式典での情報保障

- 3. 初等・中等教育機関との連携
 - 3.1 特別支援学校との連携
 - 3.2 高等学校との連携
 - 3.3 小中学校との連携

3.1 特別支援学校との連携

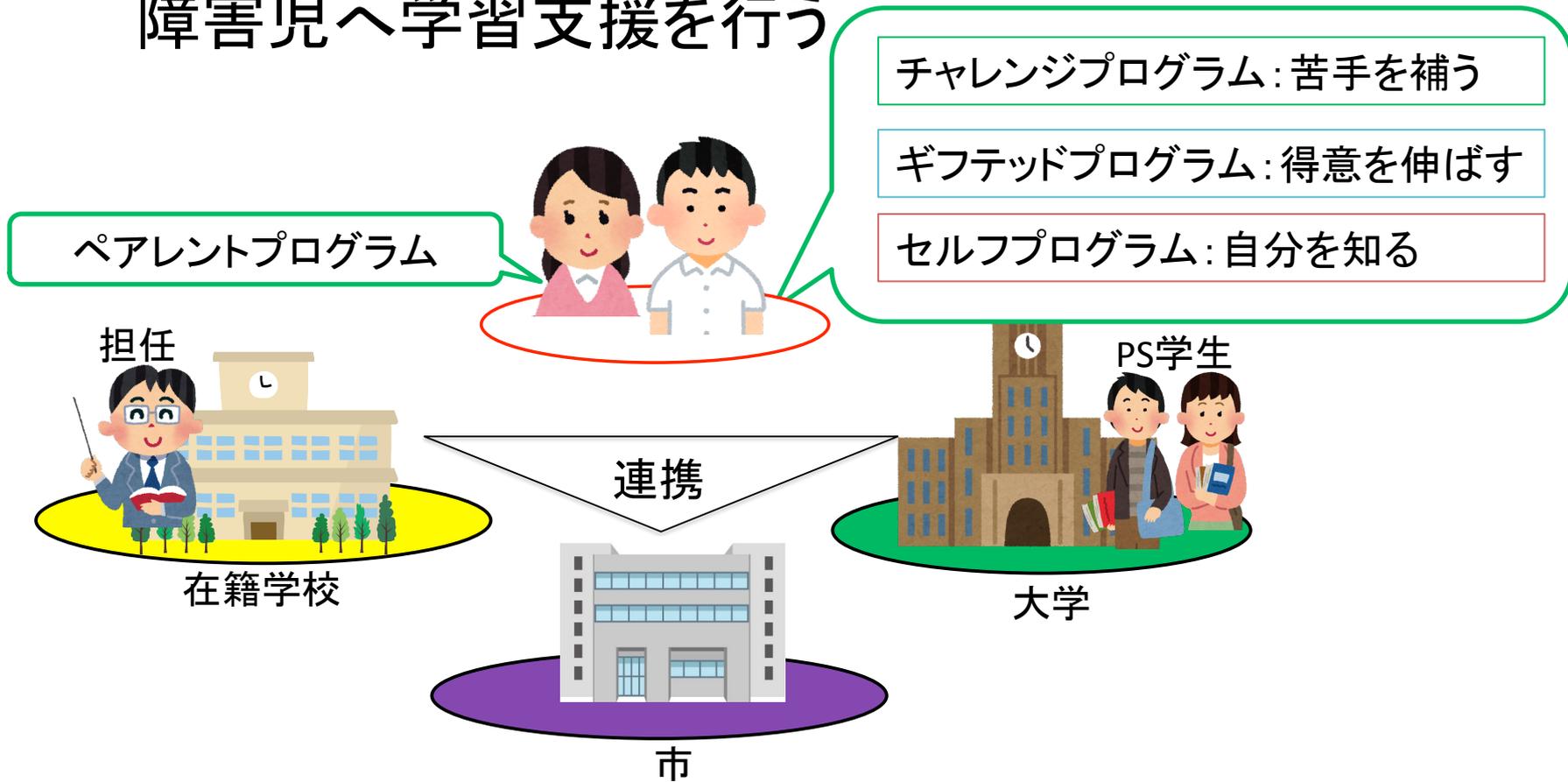
- 視覚障害者ガイドヘルプ講習会
 - 障害者支援ピアサポーター(PS)学生活動の一環
 - 講師:福岡県立高等視覚特別支援学校の教員

3.2 高等学校との連携

- 多様性理解教育
 - PS学生が講師となる
 - 障害疑似体験
 - グループディスカッション: 支援することの意味
 - 未来の人材育成 + PS学生の多様性理解促進

3.3 小中学校との連携

- 発達障害児への学習支援
 - 市教委との連携
 - PS学生が支援者となり、大学受験を目指す発達障害児へ学習支援を行う



まとめ

- 地域連携・大学間連携の意義
 - 情報交換
 - 支援体制構築の手がかり
 - ノウハウの共有
 - 支援と支援者育成をセットで実施
- 情報交換・共有の一步先とは
 - 大学横断的なスタンダードの作成
 - 支援人材・スキルの流動的利用システム